

《演奏会等報告》

(平成 28 年度)

公演報告

■ 池山 奈都子

2016年3月12日(土)・13日(日)

南日本音楽祭・鹿児島オペラ協会定期公演

「ヘンゼルとグレーテル」(エンゲルベルト・フンパーディンク作曲)

日本語上演

主催：南日本新聞社・鹿児島オペラ協会

会場：鹿児島県文化センター・宝山ホール

指揮：奥村 哲也

演出：池山 奈都子

出演者：鹿児島オペラ協会会員・鹿児島オペラ協会少年少女合唱団

管弦楽団：鹿児島交響楽団

2016年4月16日(土)・17日(日)

名古屋オペラ協会 日本オペラシリーズNo.25

「森は生きている」(林 光作曲)

主催：名古屋オペラ協会

会場：名古屋市熱田文化小劇場

指揮：倉知 竜也

演出・美術：池山 奈都子

出演者：名古屋オペラ協会会員・準会員

◎12ヵ月の精達・雪・吹雪・マツユキ草・森など自然の世界を演出するために、映像（プロジェクションマッピング）を多用した。小劇場の反響板に映し出された映像は迫力があり、音楽も引きたて舞台を引き締める効果をもたらした。

2016年4月24日(日)

児童合唱団かかみのキッズ・スプリングコンサート 2016

主催：児童合唱団かかみのキッズ

会場：各務原市民会館

指揮：深尾 明美

構成・演出：池山 奈都子

出演者：かかみのキッズ団員

伴奏：佐藤 季美

◎主宰の深尾明美さんは名古屋音楽大学の同期で、伴奏者や打楽器奏者も名古屋音楽大学の卒業生なので舞台作りも楽しく、子供たちに想像力と創造力を身に付けてもらえたらと思っている。

2016年7月2日(土)・3日(日)

稲葉地オペラ振興会 第7回公演

「友人フリッツ」(ピエトロ・マスカーニ作曲)

原語上演

主催：稲葉地オペラ振興会

会場：名古屋市東文化小劇場

指揮：柴田 祥

演出・字幕訳詞：池山 奈都子

管弦楽団：稲葉地オペラオーケストラ

出演者：荒川 裕介・趙 知奈・酒井 和音・鬼頭 愛・上木 愛李

守屋 貴美子・石黒 崇真・長嶋 未央子・森 拓斗 他

◎名古屋音楽大学の卒業生で創設された団体で、若い世代が中心となり、オペラ公演を続けており、若者の育成に大変良い機会を提供していると感じる。公演のレベルも良く、上演機会の少ない作品を上質に仕上げる事ができたと思う。

2016年7月26日(火)・27日(水)

オペラ体験教室 「ヘンゼルとグレーテル」から

主催：ひろしまオペラ・音楽推進委員会・広島市・

広島文化財団アステールプラザ

協力：愛知県芸術劇場

会場：アステールプラザ中ホール

講師：池山 奈都子

参加者：小学 4～6 年生 30 名

◎ 2 日間のワークショップで、音楽稽古と立ち稽古、小道具作成を経て、オペラの 1 シーンを作るのだが子供達の創造性に感動。

2016 年 9 月 24 日(土)

あいちトリエンナーレ 2016 舞台芸術公募プログラム

「ポッペアの戴冠」(クラウディオ・モンテヴェルディ作曲)

原語上演

主催：東海バロックプロジェクトオペラ制作委員会

制作協力：名古屋音楽大学

会場：名古屋市芸術創造センター

演出：字幕訳詞：池山 奈都子

出演者：加藤 佳代子・彌勒 忠史 他

チェンバロ：鈴木 美香 (名古屋音楽大学非常勤講師)

◎平成 28 年度個人研究費による研究に選んだ公演で、名古屋ではなかなか上演の機会がないバロック音楽を演出した。オーケストラの主催であり、編成も小さく、また古楽器である事などの理由からオーケストラをオンステージに配置し、指揮者無しで、歌い手はなるべく楽器と絡むように考えた演出にした。舞台は抽象的な道具だけにしたので、それぞれのシーンを想像させるような映像も使用し、観客の想像力を掻き立て、バロック音楽の魅力を十分に伝えられた演出に仕上がったと思う。

しかし、まだまだ勉強不足の世界なので、またバロック音楽のオペラ上演の機会を得る事を願う。

2016 年 10 月 22 日(土)・23 日(日)

アートいびがわ 2016

創作オペレッタ「水神」

主催：揖斐川町・揖斐川町教育委員会・揖斐川町文化協会

会場：揖斐川町地域交流センター・はなももホール

指揮・作曲：森 三恵子

演出：池山 奈都子

出演者：日比野 景 他

オペレッタを歌う会（合唱）

◎町民主体で行われる公演で、「こんな地域でオペレッタが盛んだなんて…」
と思わずにはいられないが、温かい人のぬくもりを感じる公演であった。

2016年11月5日(土)

名古屋市民芸術祭 2016 参加

盛 かおるソプラノリサイタル

主催：MKKレガール（盛かおる後援会）

会場：電気文化会館・ザ・コンサートホール

演出・字幕訳詞：池山 奈都子

出演者：盛 かおる

ピアノ：榊原 祐子・川上 ミネ

◎Bellini 作曲の歌曲とオペラ「夢遊病の女」、
Donizetti 作曲のオペラ「ランメルモールのルチア」のアリアを取り上げ、構成し
たりサイタル。

2016年12月18日(日)

サラマンカホール 子どものためのオペラ「魔笛」

主催：サラマンカホール

会場：サラマンカホール

演出・字幕訳詞：池山 奈都子

指揮：倉知 竜也

出演者：中井 亮一・國光ともこ・西元 佑・五十君 綾子・松波 千津子

荒川 裕介・他

ピアノ：重左 恵理

◎子供達に楽しめるよう「魔笛」の登場人物、タミーノとパミーナ、パパゲーノとパパゲーナ、そしてパンフルート・グロッケンシュピール・フルートの音楽に着目し、構成・演出した舞台。

客席の子供たちはモーツァルトの音楽をしっかりと受け止め、楽しんでくれているように感じ、オペラの裾野を広げる事も大切な活動であり、課題でもあると改めて思う時間でもあった。

一年の総括

大学で学生としっかり向き合うためにも、良質な舞台作りをこれからも心掛け、そうした時間を大切に、次世代の育成に力を注いでいければと強く思う一年でした。

演奏活動報告

■ 大岡 訓子

「8th Piano Concert Excellent」

2016年9月4日(日) 開演：13:00 電気文化会館 ザ コンサートホール

F. ショパン バラード 第3番 変イ長調 op. 47

「第4回めいおん音楽祭」 ピアノ教員コンサート ～アンコール曲を集めてⅡ～

2016年10月30日(日) 開演：15:00 名古屋音楽大学 めいおんホール

F. ショパン エチュード op. 10-8 op. 10-12

「大岡訓子 ピアノリサイタル」(自主公演)

2016年12月15日(木) 開演：19:00 電気文化会館 ザ コンサートホール

J. ハイドン アンダンテと変奏曲 へ短調 Hob. XVII:6

F. ショパン エチュード op. 10-No. 4 嬰ハ短調

No. 5 変ト長調「黒鍵」

No. 8 へ長調

No. 12 ハ短調「革命」

バラード 第3番 変イ長調 op. 47

L. v. ベートーヴェン ピアノソナタ Nr. 31 変イ長調 op. 110

このプログラムは、古典派からロマン派における 変イ長調を軸とした調性感でまとめている。ショパン バラード op. 47、ベートーヴェン ソナタ op. 110 は、変イ長調であり、ハイドン アンダンテと変奏曲は 平行調へ短調になっており、ショパン エチュード4曲を経て調性感が心地よく、聴覚から人の心に伝わるリサイタルプログラムとした。

「午後のアンサンブル」 瑞穂区在住演奏家による ゲストを迎えて

主催：名古屋市瑞穂文化小劇場

協力：株式会社河合楽器製作所

2017年3月19日(日) 開演：14:00 名古屋市瑞穂文化小劇場

ピアノデュオ (共演者 金山正一)

C. サン=サーンス ベートーヴェンの主題による変奏曲 op. 35

J. ブラームス ワルツ集 op. 39 より

J. シュトラウス (イムレ・ローマン編曲) 「美しき青きドナウ」

地元への芸術、文化の発展を願い、演奏にて地域の方々に貢献することができた。新しい瑞穂文化小劇場の主催であり、ゲストを迎えて多彩な、楽しめる構成とし、多くの聴衆に好評を得た。地域密着型のような演奏会は今後も企画、貢献していきたいと思っている。

演奏会報告

■ 佐藤 恵子

2016年9月10日 14:00 開演 津リージョンプラザお城ホール

愛知県立芸術大学創立 50 周年記念コンサート

主催 愛知県立芸術大学音楽学部同窓会三重支部

<ピアノデュオ>

ラフマニノフ作曲 組曲 op.17 より

3.ロマンス 4.タランテラ (1st.織田寛子/2nd 佐藤恵子)

2016年9月25日 18:00 開演 愛知県芸術劇場コンサートホール

あいちトリエンナーレ 2016 舞台芸術公演プログラム

愛知ロシア音楽研究会特別公演

「ロシア音の旅・おはなしの音楽」

<ソロ>

チャイコフスキー作曲「四季」 op.37 より

10月<秋の歌> 11月<トロイカで>

<伴奏>

ラフマニノフ作曲 ヴォカリーズ (金原聡子)

ショスタコーヴィチ作曲 映画音楽「呼応計画」より

(笥真美子/金原聡子/笥聡子/木村洋子/安原雅之)

2016年10月30日 15:00 開演 めいおんホール

めいおん音楽祭「ピアノ教員コンサート」

～アンコール曲を集めて2～

<ピアノデュオ>

サン・サーンス作曲「死の舞踏」 1st.佐藤恵子/2nd 清水皇樹

2017年3月9日 18:30 開演 アートピアホール

NCM 管弦楽団第 10 回定期演奏会

2 台ピアノの為の協奏曲変ホ長調 K.365

1st.佐藤恵子/2nd.中川朋子 指揮田久保裕一

色々なホールで演奏した一年でした。ホールにはそれぞれの特徴があり、演奏した曲目も違いますが、得難い経験となりました。

竹内 梓 研究紀要演奏会報告書（第36回）

■ 竹内 梓

2016年3月10日（木）

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 演奏研究テーマ 第46回 名古屋管楽五重奏団演奏会
- 主 催 名古屋管楽五重奏団
- 場 所 電気文化会館 ザコンサートホール
- 目的及び内容

目 的 定期演奏会

内 容 フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット、ピアノによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓
 オーボエ 加藤英子
 クラリネット 山川真喜子
 ファゴット 中山優希
 ホルン 宇井智美
 ピアノ 清水皇樹

- ・ディベルティメント J. ハイドン
- ・メリー ブラック ウィドー A. プリンツ
- ・「スラヴ舞曲集」より第8、10、15番 A. ドヴォルザーク
- ・17世紀の古いハンガリー舞曲 F. ファルカシュ
- ・セレナーデ ニ短調 六重奏曲 A. ドヴォルザーク

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

毎年この時期に開催される、恒例の定期演奏会である。今回の特徴は、伝統的な要素が取り入れられた曲を主に選んでのプログラムであった。木管五重奏曲の定番である、ハイドンのディベルティメントから始まり、ファルカシュ、ドヴォルザークと中欧の作曲家の作品を演奏した。スラヴ舞曲やハンガリー舞曲など、木管楽器の音色を実にうまく使った作風で、特にスラヴ舞曲などは、オリジナルとはまた違った味わいがあった。セレナーデも原曲の弦楽アンサンブルと違い、ピアノが加わった六重奏により、重厚かつ、色彩感豊

かな響きで、聞き映えのする編曲になっている。聴衆も、聞き馴染みのある曲であったせいか、聞き入ってくれたようだ。



2016年7月29日（金）

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 中部電力株式会社
- 演奏研究テーマ サロンコンサート
- 場 所 名古屋マリオットアソシアホテル
- 目的及び内容

目 的	レセプションコンサート
内 容	フルート、チェロ、ピアノ、ドラムスによる演奏
出演者	フルート 竹内 梓
	チェロ 小川剛一郎
	ピアノ 佐々木仔利子
	ドラムス 長谷川裕祐

- | | |
|----------|---------|
| ・ボレロ | M. ラヴェル |
| ・アイランデーズ | C. ボリング |

・仮面舞踏会より「ワルツ」

A. ハチャトゥリアン

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

日本室内楽アカデミーメンバーによる、サロンコンサートである。フルート、チェロ、ピアノにドラムスの加わった編成で演奏をした。打楽器が加わることにより、曲のリズムの基盤がしっかりと支えられ、テンポも安定してとても演奏し易かった。特にボレロでは、終始奏されるドラムスのリズムにより曲の流れに生気を感じられ、曲の最後に向かって盛り上げることができた。ボリングの曲では、ほぼ指定の編成で演奏でき、オリジナルの響きと雰囲気を感じていただけたと思う。

2016年10月31日（月）

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 めいおん音楽祭実行委員会
- 演奏研究テーマ コラボレーション
- 場 所 名古屋音楽大学 Do プラザ 閣蔵 ホール Do
- 目的及び内容
 - 目 的 演奏会
 - 内 容 フルート、電子オルガンによる演奏
 - 出演者 フルート 竹内 梓、澤田奈央
 - 電子オルガン 太田英美

- ・ 2本のフルートのための協奏曲ト長調 D. チマローザ
- ・ フルートとジャズピアノトリオのための第1組曲より
センチメンタル、ヴェローチェ C. ボリング

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

第4回めいおん音楽祭参加の、学部学生との共演のコンサートで、昨年につき2回目の開催である。今回は複数の楽器パートを電子オルガン1台に受け持ってもらい、さらにオリジナル音源に近い音色で再現しての演奏を目指した。チマローザの協奏曲では、ピアノ伴奏と違い、弦、管楽器の音色へのオーケストレーションにより、臨場感は増した。ボリングの曲についても、ドラムスやベースの鮮明な音により、ジャズピアノトリオに迫る演奏効果は出せたのではないかと思う。最近の電子楽器の性能の躍進は目を見張るものがある。それ故に、演奏者には、機器について、アナログ楽器とはまた異なる分野の知識の必要がわかった。しかし、今回、とても有効な演奏の機会であったので、今後もまた企画し

てみたいと思っている。

2016年11月17日（木）

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 名古屋音楽大学 管楽コース フルート専攻生
- 演奏研究テーマ 第6回 フルートオーケストラ定期演奏会
- 場 所 名古屋音楽大学めいおんホール
- 目的及び内容
 - 目 的 定期演奏会
 - 内 容 フルートオーケストラによる演奏
 - 出演者 フルート 名古屋音楽大学フルート専攻生
 - 指揮 竹内 梓

- ・「魔笛」序曲 W. A. モーツァルト
 - ・ブランデンブルク協奏曲 第3番 J. S. バッハ
 - ・交響曲 第8番「未完成」より第1楽章 F. シューベルト
 - ・セミラーミデ序曲 G. ロッシーニ
 - ・小組曲より 小舟にて、メヌエット、バレエ C. ドビュッシー
 - ・ペールギュント 第1組曲 E. グリーグ
- 朝、オーゼの死、アニトラの踊り、山の魔王の宮殿にて

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

名音大管楽コースフルート専攻生による、管楽合奏の総まとめのフルートオーケストラ第6回定期演奏会である。ピッコロからコントラバスフルートまで同族楽器をすべて使用し演奏をした。今回演奏した曲は、全て原曲はオーケストラで演奏される曲の編曲作品である。ダイナミックの変化、ハーモニーの色彩感、テンポなどフルートオーケストラならではの特徴を生かしつつ、オリジナル編成の響きにできるだけ近づけるように演奏したつもりである。今回のプログラムは、全曲、学生全員参加で、目標の演奏会に向けて一丸となり気持ちを一つにでき、とても有意義であった。また、来年度も是非機会を作り私も指揮として参加したい。



2016年12月17日（土）

- 演奏者氏名 竹内 梓
- 主 催 フルートアンサンブル「虹色の笛」
- 演奏研究テーマ ロビーコンサート
- 場 所 竹内整形外科・内科クリニックロビー
- 目的及び内容

目 的 クリスマスコンサート

内 容 フルートアンサンブルによる演奏

出演者 フルート 竹内 梓、小島賢司、三村幸宏、岡村富美子、
河合夕起子、杉江厚美、杉本 悠、増岡恵美

打楽器 杉本昇志

- ・ハレルヤ コーラス G. F. ヘンデル
- ・くるみ割り人形より「花のワルツ」 G. I. チャイコフスキー
- ・ワルツィング キャット L. アンダーソン
- ・クラシックメドレー
アヴェ・マリア（シューベルト～グノー）

- ・ここにしか咲かない花
- ・世界に一つだけの花
- ・その他

小淵健太郎

槇原敬之

◎研究に関する自己評価及び今後の展望

私と、生徒さんと結成しているフルートアンサンブル「虹色の笛」との病院のロビーでのコンサートである。今回で8回目で、患者さんだけではなく、病院の職員や一般の方も対象としている。プログラムは、ピッコロからバスフルートまで使用し、クリスマスにふさわしい選曲をした。同族楽器だけのアンサンブルのため、編成や、演奏形態を変えたり伴奏CDを使つての演奏をなど、工夫をこらした。そのせいか、メンバー全員とても気分よく演奏することができた。途中の休憩では、お菓子付きのティータイムも用意され、聴衆もしばしくつろぐことができ、十分楽しんでもらったのではないかと思う。

演奏活動・研究活動の報告

■ 中川 朋子

2016年1月14日(木) 開演：19:00 場所：衍芸館（かんげいかん）東京都杉並区荻窪

現代音楽の交差点—日本/アイルランド—

主催：Company Bene

出演

クラリネット：ポール・ロウ氏 ピアノ：中川朋子

プログラム

マリアン・インゴールドスビー：Ah, the sad expression in the eyes of that caged birdenvying the butterfly

アマンダ・フィーラー：Brief and IIIheld for clarinet and piano

小櫻秀樹：TLND for bass clarinet

リンダ・バックリー：Liquid Mercury for piano & improvising clarinet

ジェーン・オレアリー：murmurs & echoes, five miniatures for clarinet and piano

鈴木治行：句読点 X for clarinet

グレイン・マルヴェイ：Plurabelle for clarinet/bass clarinet and piano

木下正道：海の手 II for clarinet

ケネス・エッジ：Wait a while for clarinet and piano

アイルランド王立音楽院クラリネット科・ポール・ロウ教授とアイルランドの作品を共演。

プログラム中のアイルランドの作品は、今日のアイルランドで最も優れた作曲者の作品としてロウ氏によって選曲された。すべて日本初演曲。

2日前の1月12日、名古屋音楽大学において、ロウ教授による講演とコンサートが開催され、その際に、14日のプログラムからアイルランドの作品を数曲共演した。

グレイン・マルヴェイ氏の作品は曲中に、内部奏法（ピアノの弦を直接指ではじく）が含まれ、名古屋音楽大学においては指示通り、独特な演奏法を試みた。

衍芸館においては、ホールの規定により内部奏法は出来ず、マルヴェイ氏の了解を得て私のアレンジに任された。なるべく元のイメージに沿うように努めたが、後日、マルヴェイ氏からとても良い評価を頂き、安堵した。

ロウ氏の選曲によるアイルランド作品は、現代音楽でありながらも、伝統音楽の趣が感じられ、どこか懐かしく親しみやすいメロディーで、楽しく演奏させて頂く事が出来た。ロウ氏のご紹介の通り、知的なインスピレーションが感じられるマリアン・インゴールドスビー氏、アマンダ・フィーリー氏は自由で開放感に満ちた作品。

リンダ・バックリー氏の作品は、クラリネットパートが即興演奏となっていたが、今回はピアノ ソロで演奏した。アイルランド音楽界の重鎮であるジェーン・オレアリー氏の作品は、クラリネットとピアノの響きを最大限に生かした美しい曲。プログラムの最後、ケネス・エッジ氏の作品はジャズの要素が取り入れられ、リズム感に溢れ、会場も大いに盛り上がり皆様に喜んで頂く事が出来た。

ロウ氏と共演させて頂き、ロウ氏の奏でるクラリネットの美しい響きに魅了されながら、アイルランドの 現代音楽に出会うことが出来、大変貴重な経験となった。

2016 年 2 月 23 日 (火) 開演：14:00 場所：名古屋市中区役ホール

ヴィクトル・ウルマンの音楽と人生

主催：名古屋市教育委員会生涯学習課（分室）

講師：中川朋子 (Pf.)

ヴィクトル・ウルマン (1898 年～1944 年) はユダヤ系の作曲家で、ナチスに弾圧され、その才能ある人生を絶たれた。過酷な収容所の中でも作品を生み出し続けた彼の人生を通して音楽の力、喜びについて講演し、最後のピアノソナタ第7番の第5楽章も演奏した。講演は、下記の項目に沿って進めた。(項目ごとに要点・解説のプリントを配布した)

- (1) 誕生、幼少～青年時代 (1909 年～1911 年)
- (2) シェーンベルクとの出会い
- (3) 指揮者、作曲家として
- (4) 神智学との出会い
- (5) ヴァイマル (ワイマール) 共和制からナチス政権へ (時代背景)
- (6) プラハでの活躍①受賞②ウルマンのピアノソナタ③ピアノコンチェルト作品 25
- (7) テレージェンシュタット (ゲットー開設) ①収容所が出来た初めの頃②1942 年頃から
- (8) テレージェンシュタットでのウルマン
- (9) テレージェンシュタットの実状 (1944 年頃)
- (10) テレジンからアウシュビッツへ 1944 年 10 月 18 日、命を断たれる
- (11) ピアノソナタ第7番

作品完成日、1944年8月22日と楽譜に記される

表紙にはウルマンの3人の子供たちの名前と、子供たちにこの曲を捧げると書かれている

第1楽章 マーラーの雰囲気漂う

第2楽章 行進曲「テレージェンシュタットのスケッチブック」と題される

第3楽章 逆行型で作曲される 逆行の作曲法は、「死」と「無限」の象徴

第4楽章 ウィーンの作曲家リヒャルト・ホイベルガーのオペレッタ「オペラ舞踏会」から引用される

第5楽章 ヘブライの主題による変奏曲とフーガ

主題のヘブライ民謡は、ユダヤ人作曲家エフダ・シャレットの「レイチェル歌」。フーガは、ヘブライのテーマと「汝ら神の神戦士たちよ」の聖歌、更に「BACH」のモチーフで構成されている。

2014年は、ウルマン没後70年にあたり、そのことから、平和を祈るキャンペーンとしてモーツァルテウム音楽大学の教授によるコンサートがザルツブルクで開催された。

又、2015年は戦後70年にあたり、これらのことから、講演のテーマを「ヴィクトル・ウルマンの音楽と人生」に選んだ。ウルマンの話題は、全体として重いテーマではあったが、一人の偉大な作曲家がいたという事実を、この講演で伝えることが出来たのではないかと思う。

2016年4月3日(日) 14:00 開演 場所 : 5/R Hall & Gallery 音楽ホール

中川朋子・春のピアノ トークコンサートII

メンデルスゾーン：無言歌 Op. 62 より

「5月のそよ風」「ヴェネツィアの舟歌」「春の歌」

シューベルト：幻想曲 Op. 15 ハ長調「さすらい人幻想曲」

シューマン：森の情景 Op. 82

ドビュッシー：映像第2集

スクリャービン：ピアノソナタ第5番 Op. 53

5/R Hall & Gallery での春のピアノ トークコンサートは2回目を迎え、「春の歌」など親しみやすく、季節感のある曲目を取り入れたプログラムで臨んだ。

シューベルト「さすらい人幻想曲」は、更に研究し、是非、演奏してみたい曲の一つである。アンコールはメンデルスゾーン無言歌より「ヴェニススのゴンドラの唄」、リスト「献呈」を演奏。

お客様の温かい拍手を頂き、アットホームな雰囲気ですべてのプログラムを進める事が出来た。

2016年4月10日(日) 14:00開演 場所：名古屋市文化小劇場

煌めく管のひびき 小櫻秀爾 管楽器作品演奏会

出演者：亀井明良氏(S. Sax.) 瀧彬友氏(A. Sax.) 中山順次氏(T. Sax.) 櫻井牧男氏(B. Sax.)
原田綾子氏(CL.) 新井雅夫氏(Hn.) 中川朋子(Pf.)

プログラム

- 1、サクソフォンとピアノのためのディベルティメント
- 2、クラリネット・ホルンピアノのための対話
- 3、サクソフォン四重奏のための小組曲
- 4、クラリネットとピアノのための群生海
- 5、サクソフォン四重奏曲「カプリチヨ」
- 6、サクソフォン四重奏曲「RAKU」

プログラムの1、2、4の小櫻秀爾氏の管楽器作品を今回、初めて共演させて頂いた。サクソフォン、クラリネット、ホルンの響きの中で、ピアノの音色をどのように主張すべきか、当日は「対話」を楽しみながら演奏させて頂いた。

2016年7月10日(日) 場所：河北町 サハトベに花ホール

第17回山形県ジュニアピノコンクール予選の審査員を務めた

主催：山形県ジュニアピノコンクール実行委員会

審査員長・中野孝紀氏

審査員・渋谷りり子氏、植木由利鈴氏、鈴木美奈氏、田原さえ氏、田中千子氏、庄子みどり氏、浅野純子氏、佐藤博幸氏、松本裕子氏、松本裕美子氏、中川朋子

6地区の予選を経て、9月3日4日に山形市中央公民館ホールにて本線が行われた。私は村山・寒河江地区予選の審査を担当した。

2016年10月1日(土) 場所：ハートピア春江(大ホール) 福井県坂井市

第3回さかい九頭竜音楽コンクールの審査員を務めた。

主催：(公財)坂井市文化振興事業団

審査員(ピアノ・マリimba部門)：練木繁夫氏、小川佳津子氏、中川朋子

山形県ジュニアピノコンクール、さかい九頭竜音楽コンクールも共に、地域の音楽振興と若い演奏家育成を目的に、地域のご協力とご尽力によって毎年開催されている。

コンクール終了後の全体講評では、「更なる目標として、今後、多くの曲を勉強して行く中で、時代ごとの作曲者が持つ音楽の特徴を知って、表現出来るようになれば、より楽しく演奏出来るでしょう」などと述べた。

2016年12月7日(水) 開演：19:00 場所：ザ・コンサートホール 名古屋市電気文化会館

MOSAIC

CONCERT for 2 COMPOSERS

SHUJI KOZAKURA & AKIRA NOMURA

出演者：井本聖子氏（二十五弦箏）、森山孝光氏（Bar）、森山康子氏（Pf）、廣瀬恵子氏（Pf）、中川朋子（Pf）

プログラム

- 1、出会い ～二十五弦箏のための～小櫻秀爾
- 2、鎮魂歌・あざみの花に 野村朗
- 3、ピアノ組曲「生きている星 小櫻秀爾
- 4、懐かしい明日へ ～もう一つの鎮魂歌～ 野村朗
- 5、ピアノソナタ第1番 小櫻秀爾

プログラム最後の小櫻秀爾氏作品、ピアノソナタ第1番を演奏した。

この作品の持つキャラクターを、私なりに表現することに努めた。

今年度は現代音楽の分野に於いて、アイルランドの初演作品や日本の作品（小櫻秀爾氏）を演奏する機会を得た。貴重な経験を今後の糧としたい。